［成果情報名］温州ミカンにおけるアカマルカイガラムシの発生消長

［要約］アカマルカイガラムシの幼虫は旧葉、春葉とも７月上旬、８月中旬～９月中旬に発生ピークがみられ、特に８月下旬に多く発生する。春葉では発生ピーク時に旧葉より多く発生し、１雌成虫の産下する幼虫数は旧葉より多い。

［キーワード］アカマルカイガラムシ、発生消長、温州ミカン

［担当］長崎果樹試・病害虫科

［連絡先］電話 0957-55-8740、電子メール t.miyazaki@pref.nagasaki.lg.jp

［区分］果樹（病害虫）

［分類］指導

［背景・ねらい］

平成１４年から異常発生しているアカマルカイガラムシの効率的な防除体系を確立するため、本種の発生消長を明らかにする。

［成果の内容・特徴］

１．アカマルカイガラムシ幼虫は旧葉、春葉とも７月上旬、８月中旬～９月中旬に発生ピークがみられ、特に８月下旬が多く５日間で雌成虫１頭あたり８．３頭の幼虫が発生する(図１、図２)。

２．アカマルカイガラムシ幼虫は春葉では発生ピーク時には旧葉より多く発生する。また、１雌成虫の産下する幼虫数は春葉では平均２８．７頭であり旧葉の１６．７頭に比べ多い（表１)。

３．１９６７年に調査された大串らのアカマルカイガラムシの幼虫発生消長と比較すると第１世代の発生ピークがやや遅れているが、ほぼ同じようなよう発生パターンをである。

［成果の活用面・留意点］

１．アカマルカイガラムシの薬剤による防除は若齢幼虫が最も多い時期に散布するのが効果的である。

［具体的データ］

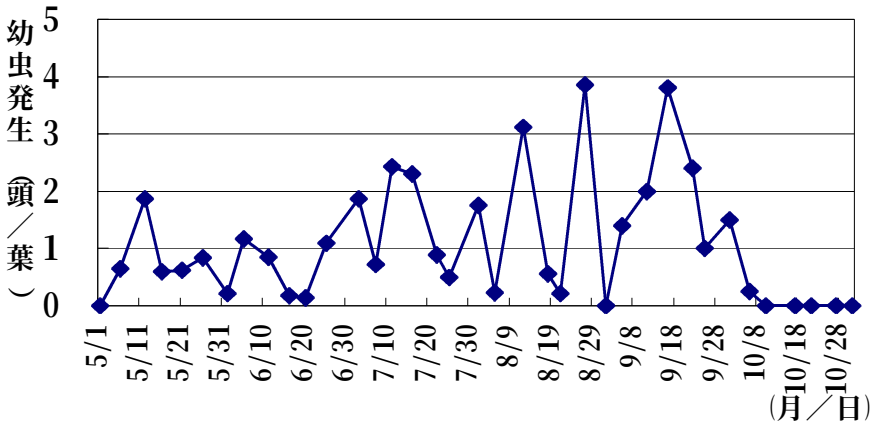


図1　旧葉におけるアカマルカイガラムシの幼虫発生消長

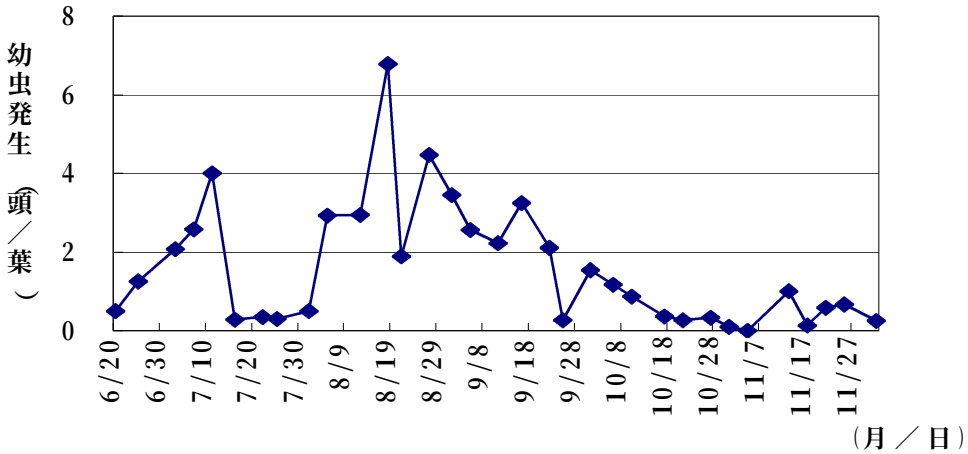
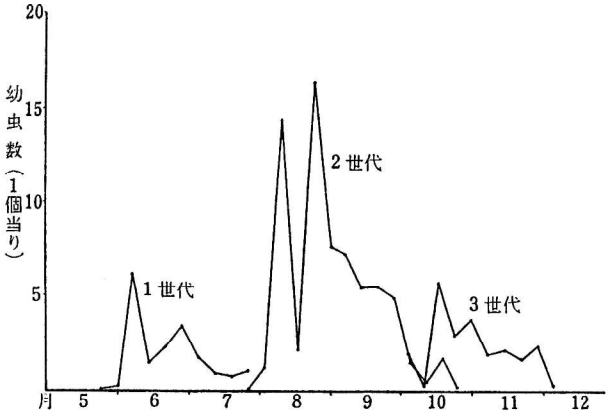


図2　春葉におけるアカマルカイガラムシの幼虫発生消長

表1　アカマルカイガラムシ雌成虫からの幼虫発生頭数

	最大	平均
旧葉	133	16.7
春葉	90	28.7



参考　アカマルカイガラムシの発生消長（7日毎）　（大串　1967年）

［その他］

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

予算区分：県単

研究期間：平成15年度（昭和58～）

研究担当者：宮崎俊英、早田栄一郎